

事務事業名	若者チャレンジ推進事業(課題解決人材育成確保)	所属部	政策企画部	所属課	政策推進課	
総合計画体系	政策名	<I>みんなで築くまち<<協働・行政経営>>	所属G	チャレンジ創生G	課長名	鳥谷 健二
	施策名	<01>市民が主役のまちづくりの推進	担当者名	武田 遼太	電話番号	0854-40-1011 (内線) 2333
	目的: 対 象	市民	意 図	まちづくりの課題を主体的に解決する。		
	基本事業名	<002>まちづくりの人材確保	予算科目	会計 款 大事業 大事業 0:11001 事業名 項 目 中事業 中事業 0:53519 事業名	企画総務管理事業 若者チャレンジ推進事業	
目的: 対 象	市民	意 図	地域社会の担い手になる。			

1 現状把握 [DO]

(1) 事業概要

① 事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 (H23 年度~) <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度~ 年度)
② 事業内容 (期間限定複数年度事業は全体像を記述)	地域課題解決を実践する若手人材の育成確保を進めるため、起業プランや地域活性化プラン等の実現を目指す若者を掘り起こし、そのプランを実現するための企画・実践をサポートする「幸雲南塾」や若手人材の掘り起こしとネットワーク化を進める「定例勉強会」を実施する。 また、全国の先進自治体や都市圏NPOと連携協働し、都市圏で地方起業に関心ある人材とのネットワーク構築や人材誘致をすすめる。

(2) 事務事業の手段・指標

手段	① 主な活動	R元年度実績(R元年度に行った主な活動) ・幸雲南塾2019の企画・運営 ・定例勉強会の企画・運営 ・若者チャレンジ支援コーディネーター(CN)による若者支援 ・ローカルベンチャー推進協議会との連携・協働による都市圏人材とのネットワーク構築及び人材誘致 ・委託業務契約等	R2年度計画(R2年度に計画する主な活動) ・幸雲南塾2020の企画・運営 ・スペシャルチャレンジホープ伴走支援 ・若者チャレンジ支援コーディネーター(CN)による若者支援 ・ローカルベンチャー推進協議会との連携・協働による都市圏人材とのネットワーク構築及び人材誘致 ・情報発信人材育成 ・地域の持続可能性を高めるための仕組み検討 ・委託業務契約等			
	② 活動指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R元年度(実績)	R2年度(計画)
ア	塾の開催回数	回	27	25	14	15
イ	塾生(修了証授与者)	人数	28	8	35	20
ウ						
エ						

(3) 事務事業の目的・指標

目的	① 対象(誰、何を対象にしているのか)	③ 対象指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R元年度(実績)	R2年度(計画)
	社会起業家や地域貢献等を志す若い人材	ア 塾生(修了証授与者)	人数	28	8	35	20
	② 意図(対象がどのような状態になるのか)	イ					
	雲南市のまちづくりに貢献してもらう	ウ					
		④ 成果指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R元年度(実績)	R2年度(計画)
		ア 雲南市のまちづくりに関わっている塾修了生の数	人	28	8	35	20
		イ 塾終了生の自主企画事業の実施回数(累計)	回	27	32	36	40
		ウ					

(4) 事務事業のコスト

① 事業費の内訳(1年度決算)	② コストの推移	単位	H29年度(決算)	H30年度(決算)	R元年度(決算)	R2年度(計画)
・委託費 22,740千円(塾運営・CN配置) ・使用料 458千円(サーバー使用料) ・負担金 8,500千円(ローカルベンチャー協議会) 合計 31,698千円	財源内訳	千円	16,139	16,112	15,620	14,931
	国庫支出金	千円				
	県支出金	千円				
	地方債	千円				
	その他	千円	19,463	16,981	16,078	15,052
	一般財源	千円				
	事業費計(A)	千円	35,602	33,093	31,698	29,983
	人件費	人	3	3	3	
	正規職員従事人数	時間	1,500	1,500	1,500	
	延べ業務時間	千円	6,116	6,498	6,360	
	人件費計(B)	千円				
	トータルコスト(A)+(B)	千円	41,718	39,591	38,058	

(5) 事務事業の環境変化、住民意見等

① 環境変化 (この事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどうか変化しているか? 開始時期あるいは5年前と比べてどうか変わったのか?)	② 改革改善の経緯 (この事務事業に関してこれまでどのような改革改善をしているのか?)	③ 関係者からの意見・要望 (この事務事業に対して市民、議会、事業対象者、利害関係者等からどんな意見や要望が寄せられているか?)
志ある若者のネットワークが市内外に広がり、地域課題解決に向けた活動が活発化している。市内若者の塾参加も増え、これに魅力を感じ移住者も増えている。 総合計画及び総合戦略の重点戦略として若者チャレンジの創出を位置づけている。	塾卒業生のフォロー体制の構築、プラン実践に向けたチャレンジ資金の提供、定例勉強会の開催などの改善に努めている。都市圏NPOとの連携により、地方創生に関心ある企業や地方起業を志向する人材(若者)とのネットワークも広がっている。R1年度は個別伴走のみではなく、まちの未来に必要な仕組みを考えるチーム制での塾生伴走を行った。	本事業に対し関心を持つ市民が増えており、また市外からの反響も強く、Uターンにもつながっている。 市議会からも若い世代の人材育成に関して積極的に取り組むべきとの意見を頂いている。

2 事後評価【SEE】

A 目的 妥当性	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？ 意図することが結びついているか？ <input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている * 余地がある場合 →	見直し余地があるとする理由
	② 公共関与の妥当性 なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して達成する目的か？ <input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である * 余地がある場合 →	
	③ 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加する必要はないか？意図を限定・拡充する必要はないか？ <input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 適切である * 余地がある場合 →	
B 有効性	④ 成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？ 成果を向上させるため現在より良いやり方ははないか？ 何が原因で成果向上が期待できないのか？ <input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある <input type="checkbox"/> 向上余地がない 理由	地域自主組織や市内外の企業との連携強化等の改善により、地域課題の解決に向けた若者チャレンジをより一層推進することができる。 起業創業の動きも強くなっているため、産業支援機関や金融機関との連携を強化して、成果向上を図る。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響 この事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？ <input type="checkbox"/> 影響無 <input checked="" type="checkbox"/> 影響有 理由	H23年度から始まった事業であり、若者チャレンジの推進に大きく寄与している。廃止した場合は、若者チャレンジの推進やまちづくりに大きな影響がある。
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 目的達成には、この事務事業以外の手段(類似事業)はないか？ ある場合、その類似事業との統廃合・連携ができるか？ <input type="checkbox"/> 他に手段がある * ある場合 → (具体的な手段や類似事業名) <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない <input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない 理由	H28年度において、類似事業との統合を図った。
C 効率性	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など) <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がある <input type="checkbox"/> 削減余地がない 理由	事業費の最適化に努め、コスト削減に努めたい。
	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地 成果を下げずにやり方の工夫で延べ業務時間を削減できないか？ 正職員以外や外部委託ができないか？ <input type="checkbox"/> 削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない 理由	NPO法人へ業務委託するとともに、塾生OBにもスタッフとして関わってもらうなど業務時間の削減に取り組んでおり、これ以上の削減余地はない。
D 公平性	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？ 受益者負担が公平・公正か？ <input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である 理由	塾生を中心にした取り組みであるが、チャレンジを指向する若者等は誰でも参加でき、また幸雲南塾の講義も広く公開しているなど、公平・公正である。
評価 の 総 括	① 1次評価者としての評価結果 A 目的妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり B 有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり C 効率性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり D 公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	② 1次評価結果の総括(根拠と理由) 都市圏のNPOや起業家人材とつながり、塾生の事業の成長や意識の変化があったことに加え、雲南に関わりをもつ都市圏人材が増えつつある。 成果志向と継続性を引き続き高めていけるよう、多様な人材が混ざり合う場づくりに取り組んでいく。

3 今後の方向性【PLAN】

① 1次評価者としての事務事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携 <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善) <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(公平性改善) <input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)	② 改革・改善による期待成果																										
・個別のチャレンジャー支援にとどまらず、地域のヒト・モノ・コトをつなげ、生態系全体で暮らしや地域をよりよくする事業を創出していく。 ・事業化支援にあたっては、外部の支援組織とも連携し、持続可能なモデルとなるよう支援する。	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center; border-collapse: collapse;"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="2">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td>●</td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <th rowspan="2">低下</th> <th>維持</th> <td></td> <td>×</td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上		●		維持			×	低下	維持		×		低下			×
				コスト																							
		削減	維持	増加																							
成果	向上		●																								
	維持			×																							
低下	維持		×																								
	低下			×																							
廃止・休止の場合は記入不要。 コストが増加(新たに費やし)で成果が向上しない、もしくはコスト維持で成果低下では改革・改善とはならない。																											